

6 16 日華化学(株)鯖江工場が消防庁長官表彰受賞

鯖江・丹生消防組合管内で初受賞。県内では10番目

同工場は、1986年に事業開始以来一度も火災の発生はなく、また、保安管理においても危険物取扱者全員が講習を受講し、安全確認励行などの内部マニュアルを作るなど、従業員が一丸となって積極的に危険物施設の保安向上に取り組む姿勢などが高く評価されました。この日、三井彰弘工場長ら2人が牧野市長に受賞を報告。牧野市長は「市にとっても喜ばしいこと。他の事業所の励みになる」と話すと、三井工場長は「今回の受賞は、先輩たちが続けてきたことの積み重ねのおかげ。今後も安全管理に力を入れていきたい」と気を引き締めていました。



受賞の喜びを語る三井工場長（中）

6 23 カメラが顔を認識しない眼鏡、すごい!

進徳小児童が個人情報の守り方を学ぶ

鯖江発の最先端の技術に触れ、科学に興味を持ってもらうとともに、ネット社会でのプライバシーの守り方を学ぶ授業が同校で行われ、国立情報学研究所（東京）の越前功教授が講師を務め、会員制交流サイト(SNS)などに写り込んだ写真により個人情報が漏れてしまう恐れがあるなど問題点を学びました。また、児童たちは、鯖江のものづくりの技術を生かし、同教授が開発したカメラへの写り込みによるプライバシー侵害を防ぐ「プライバシーバイザー」の簡易版キットの制作に取り組み、実際に眼鏡を掛けてカメラへの写り込みがないことを確認すると、児童たちは驚きの表情を見せていました。



越前教授に教わりながらプライバシーを守る眼鏡を作る児童たち

6 24 オリジナル眼鏡をデザイン

鯖江中で眼鏡デザイナーによる特別授業開催

市教委が、生徒たちに市の基幹産業である眼鏡に関心を持ってもらおうと企画。眼鏡企画販売製造(株)シャルマン(川去町)の若手デザイナー10人が1年生248人に眼鏡のデザインを教えました。生徒たちは事前にオリジナルデザインを用意し、デザイナーに助言を受けながら厚紙に描きました。アニメキャラや花柄などをかたどったり、文具付きで勉強に便利な眼鏡など、豊かな発想力で自分だけのオリジナル眼鏡を完成させました。生徒たちは「楽しくデザインできた」と笑顔を見せていました。後日、デザイナーが優秀作品を選び9月の文化祭で展示する予定です。



自分が作った眼鏡について発表する生徒



夢中で魚を観察する子ども

6 25 目指せ!人と生きものが仲良く暮らせるまち!!

ごみの分別や再利用、楽しみながら学ぶ

今年で17回目の開催となった「さばえ環境フェア2016」。会場となった郷陽会館には、市が4月に変更したごみの分別方法をクイズ形式で紹介するコーナーや、間伐材で作った積み木で遊べる広場など、64団体が趣向を凝らして出展しました。中でも注目を集めたのは、初登場となった「日野川水族館」。市内を流れる日野川に生息するサクラマスやヤマメ、アユなど十数種類の魚を水槽に入れて紹介しました。子どもたちは「鯖江にも魚がいっぱいいるんだね」と驚いた様子でした。

6 鯖江公民館が一新

26

公民館を拠点に地域の活性化を

鯖江公民館の建て替えが完了し、この日落成式が行われ、住民ら150人が出席しました。同公民館は鉄筋3階建てで、外観は和をイメージしたデザインを取り入れており、調理実習室や多目的ホール、約220人収容の大ホールなども備えています。また、旧公民館で半世紀にわたって市民に愛された巨大壁画も、大型タペストリー（壁飾り）となり、館内に飾られています。

落成式では、関係者によるテープカットが行われたほか、惜陰小、鯖江中吹奏楽部らによる祝賀音楽会も開かれました。牧野市長は「これまで以上に多くの人に愛され、親しまれる、地域のシンボルとなってほしい」と今後に期待を込めました。



多くの地域住民が出席して落成を祝いました



記念式典で決意を語る高嶋茜会長

7 市民の悩みに耳を傾けて30年

2

「鯖江こころの電話」が記念式典開催

「鯖江こころの電話」は、市内の女性グループが中心となり昭和61年に開設されて以来、心身の悩みを持つ人らの電話相談をボランティア活動として続けてきました。現在の年間相談件数は千件近くに及び、多くの人の心の支えとなっています。嚮陽会館で開かれた開設30周年記念式典で高嶋茜会長は「今後も一層の研さんを積み、より良い相談員を目指したい」と決意を新たにしていました。

また、元NHKアナウンサーで現在は千葉県熊野神社宮司の宮田修さんによる記念講演も行われ、椅子が足りなくなるほどの盛況ぶりでした。

7 祝！まなべの館20万人突破

3

市民に愛され6年半で達成

平成22年にリニューアルオープンしたまなべの館（旧資料館）の延べ入館者数が20万人を達成しました。20万人目となったのは、吉江町に住む藤井幸恵さん、次男の凱斗君、長女の心翠さん、友人の小竹琉聖君、萌香さん。5人は牧野市長らに出迎えられ、市のキャラクター「ちかもんくん」らと一緒にくす玉を割り、まなべの館からグッズ詰め合わせが贈られました。藤井さんは同館で開催中の「幕末・明治写真展」を見にきたといい、「20万人目なんてびっくり、また子どもたちと訪れたい」と笑顔で話していました。



20万人目となり、笑顔で記念撮影する藤井さんら5人



牧野市長から激励を受けた、窓岩日菜さんと田中悦博監督

7 全日本サッカーへ闘志

9

窓岩日菜さん、牧野市長に活躍誓う

全日本ユース（U-15）サッカー選手権（23日～大阪府）に出場する丸岡RUCKレディースFWの窓岩日菜さん（中央中1年）が牧野市長を表敬し、大会への意気込みを語りました。窓岩さんは身長142センチと小柄ながらも、スピードを武器に、自分より大きな選手とも十分に渡り合っている実力を持っており、一緒に市役所を訪れた同チームの田中悦博監督も「短距離のスピード感が抜群で、将来有望な選手です」と絶賛。窓岩さんは大会に向けて、「自分の強みであるスピードを生かしてチームに貢献したい」と語りました。

7/8 市の人口が過去最高に!!

市制施行以来最多を記録

この日の発表で、7月1日時点の市の人口が69,141人となり、1955年の市制施行以来過去最高を記録しました。全国的に人口減少が進む地方自治体で、過去最高の人口になるのは珍しいことです。なお、人口の増加原因としては、例年4月1日の人口は前月比で100人程度減少していたところを、今年は41人減少にとどまったことが考えられます。これは3月の転入者が対前年比で35人増であったことが主な理由です。また、鯖江版3本の矢「学生連携のまちづくり」、「市民主役のまちづくり」、「オープンデータによるITのまちづくり」の取り組みが近年全国から注目を集めるなか、人口増加も成果の表れではないかと今後が期待されます。



庁舎エントランスの掲示板

7/10 1人暮らし高齢者の生活を応援

河和田地区の大工さんらが無償奉仕

この事業は、河和田建築組合と民生委員児童委員協議会河和田支部が、地区の1人暮らしの高齢者の困りごとを助っ人できたらと企画し、同建築組合長で民生委員の池田利治さんの呼び掛けで実現しました。同建築組合15人が、依頼を受けた約60本の包丁研ぎと15軒の高齢者宅を訪問して建具のきしみなどを無償で修繕しました。柴田秋子さん宅(椿坂町)では、玄関口の日よけにすだれの取り付けを依頼。手際よく取り付ける大工さんを横目に、「これで暑さも和らぐ」と喜んでいました。



高齢者宅の玄関口にすだれを取り付ける大工

西山動物園の新しい仲間を紹介します。

6/2生まれ コサンケイのひな、すくすくと

西山動物園で飼育している、絶滅の恐れがあるキジの仲間コサンケイのひな1羽が、この日「自然ふ化」により誕生しました。順調に生育しており、薄茶色の毛が生えていて、親鳥の後をちょこちょこ追いかけるかわいらしい姿が来園者の人気を集めています。半年ほどで性別が判明し、1年ほどで成鳥になるそうです。西山動物園において、コサンケイが「自然ふ化」により生育するのは今回が初めてです。誕生したひなは、現在展示場で一般公開しています。



母親に寄り添うコサンケイのひなすくすくと育っています

7/4生まれ “お騒がせ”リスサルに赤ちゃん誕生

この日朝、西山動物園でポリビアリスザルの「ハッチ」が赤ちゃんを産みました。ハッチは6月23日に脱走騒ぎを起こしたリスサルで、脱走時には既に臨月状態だったため、飼育員は「無事に生まれて良かった」と胸をなで下ろしていました。ハッチの出産は今回で5回目。赤ちゃんの体色は親と同じような黄色で、生後数カ月間は母親の背中につきまわり母乳だけで育ち、その後、徐々に母親の背中から降りて歩き回るようになり、餌も食べるようになります。性別は不明です。愛らしい赤ちゃんは現在一般公開しています。



母親の背中に“ギュッ”としがみつくるポリビアリスサル赤ちゃん